



千葉大学大学院看護学研究院附属
専門職連携教育研究センター

令和3年度（2021年度）
事業報告書

令和4（2022）年3月

千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター

目次

I. ごあいさつ	3
II. 専門職連携教育研究センターについて	4
III. センターの取り組みと成果	12
1. 教育	12
1) 亥鼻 IPE の発展・進化	12
2) 新たな IPE プログラムの開発	14
3) FD の充実	14
2. 実践・社会貢献	16
1) IPE 研究拠点からの発信	16
2) IPW の促進	17
3) 政策提言	18
3. 研究	19
1) IPE 研究の進化	19
4. 組織運営	19
1) 予算と人材の確保	19
2) PDCA サイクル (plan-do-check-act cycle) に基づく組織運営	19
3) IPERC の将来構想	20
IV. 外部評価委員会開催と外部評価委員による講評	21
1. 令和3年度(2021年度)外部評価委員会の開催	21
2. 外部評価委員による講評	21
3. 外部評価委員の講評のまとめ	22
1) 教育について	23
2) 実践・社会貢献について	23
3) 研究について	23
4) 組織運営について	23
VI. 資料	24
(資料1) 亥鼻 IPE 数値実績	24
(資料2) IPERC 主催研修受講者	30
(資料3) 地域貢献事業実績	32
(資料4) IPERC 特任教員・兼務教員の獲得している研究助成金 (いずれも継続)	37
(資料5) IPERC 外部からの寄付金及び委託費	37
(資料6) 研究業績	38

I. ごあいさつ

令和3年度は with コロナとして2年目の活動となり様々な制約を受けながらも、IPE を推進した1年間となりました。

亥鼻 IPE は2年目の遠隔 IPE 授業となりました。ステップ1では千葉大学病院に入院中の患者様への web アプリを介したインタビューを、看護部をはじめとするみなさまの多大なご協力のもとに実施しました。ご協力いただいた患者様たちに喜んでいただいたことは大きな収穫でした。コロナ禍で家族との面会が制限される中で学生の対話が患者様にとっても意味ある時間となったのだと思います。ステップ2では、IPW 研修に来ていただいた県外の専門職の方々にもご協力をいただき、学生のインタビューを引き受けていただきました。またいつもご協力いただく施設の方々、大学病院の専門職のみなさまも、ICT を活用した方法で施設紹介をしていただくなど、それぞれの現場でただならぬ忙しさであるだろうにもかかわらず、学生のためにご配慮いただきましたこと、深く感謝申し上げます。ステップ4では模擬患者様、大学病院の専門職の皆様にご支援をいただきました。ステップ4を受ける学生さんたちが「最後の IPE 頑張ります」と IPERC に連絡をくださるなど、あらためて亥鼻 IPE が関係各所より大切にされている様を実感することができました。

そして、昨年度は実施できなかったクリニカル IPE ですが、今年度は規模を縮小はしましたが実施することができました。企画調整から一緒に行うことができましたことを深く感謝申し上げます。

あらためて大学病院の IPW の進展を実感する機会となりました。

大学病院との連携では、令和4年度からの新入職員への IPW 研修企画、新人看護師と研修医との合同技術演習企画、令和2年度から引き続き特定行為研修共通科目での専門職連携実践演習などを行っています。連携強化が可視化された1年だったと思います。

また、令和3年度から看護学研究科の大学院博士前期課程のカリキュラムが一新され、専門職連携実践論、専門職連携教育論、災害時専門職連携演習の3つの科目が正規科目としてカリキュラムに組み込まれ、多くの受講生を得たことも大きな出来事です。

外部からの委託研修では、千葉県委託の認知症多職種研修を完全オンラインで2日間実施しました。また介護人材育成事業への協力として日本語を母国語としないの方々へも対応した IPE を実施しました。また亥鼻キャンパスの近隣自治会において、避難所運営トレーニングを住民自治会、千葉市、中学校などと協働して開催したことは特筆すべきことです。

海外との交流もインターネットを介して活発に行いました。上海交通大学およびシンシナティ大学との IPE に関する情報共有、台北医科大への授業、ライブツィヒ大学との学生交流のトライアル、オーストラリアとのグローバル IPE プログラム開発の模索などを地道に実施しています。

最後に、IPERC では、南江堂の「NurSHARE」という情報サイトで「IPE を始めましょう、そして続けましょう。」という連載を3月よりスタートさせています。

この1年間 IPERC の事業にご理解とご協力をいただきました関係各所のみなさまに深く感謝申し上げます。

2022年3月31日
センター長 酒井 郁子

Ⅱ. 専門職連携教育研究センターについて

当センターの理念、ビジョン、ミッションは、平成 27 (2015) 年 1 月からセンター長及び特任教員で原案を作成し、教育研究実践部会及び運営委員会で検討し、平成 27 (2015) 年 2 月 23 日、平成 27 年度(2015 年度)第 1 回運営委員会で決定した。

1. 理念、ビジョン、ミッション

1) 理念 (社会における存在意義、信条)

「専門職連携教育・実践・研究の開発・蓄積・普及」

当センター (IPERC : Interprofessional Education Research Center) は、本学の理念「つねに、より高きものをめざして」をよりどころに、超高齢社会とグローバル化に対応する次世代を切り開く人材教育とイノベーションに資する実践や研究を行い、専門職連携学の体系的構築を考究する研究拠点として機能し、もって人々の健康的で豊かな生活に資することを理念とする。

2) ビジョン (目指すべき姿、未来像)

「IPE (Interprofessional Education : 専門職連携教育) 研究拠点として専門職連携学の構築と組織的な発展をめざす」

本学で先導してきた医療系 3 学部 (医学・薬学・看護学) の亥鼻 IPE の蓄積を踏まえ、当センターは IPE 研究拠点として機能強化し、さらに発展した姿として「専門職連携学」の大学院の設置を目指す。

3) ミッション (果たすべき使命、社会的役割)

(1) 教育

亥鼻 IPE を発展進化させ、さらに大学院や医療系以外の教育機関との IPE など新しい IPE プログラムを開発し、自らの専門的な力を高めるとともに、他者と連携協働して目的を達成でき、組織改革をしていける次世代型人材を育成する。

(2) 実践 (社会貢献)

IPW (Interprofessional Work : 専門職連携実践) を担う人材育成 (現任者対象の IPE) について各種研修プログラムを開発し、大学病院や総合病院、地域の医療と介護を包括した IPW を促進する。また、IPE 研究拠点として教育・実践・研究の蓄積および発信を行うとともに、IPE や IPW を推進する政策提言を行う。

(3) 研究

IPE に関する国内外の研究調査等を踏まえ、亥鼻 IPE の評価研究を実施し、効果的な IPE プログラムの理論化・体系化を行う。また、IPW に関する国内外の研究調査等を踏まえ、病院内や地域医療、そして、その両者をつなぐ有効な IPW 人材育成およびシステムに関する研究を行う。これらを専門職連携学として理論化・体系化する。

(4) 組織・運営

IPE 研究拠点としてその機能が発揮できるよう安定的な予算獲得と人材確保を行い、ミッションが達成できるよう、PDCA サイクル (plan-do-check-act cycle) による運営体制を構築する。

2. 組織

当センターは、看護学研究院の研究・教育施設として位置づけられている。センター教員は、特任教員と3学部から兼務教員である。下記に組織図および各会の名簿を示した。

センター教員は「教育実践研究部会」を開催し、研究、教育・実践、および研修活動として、下記の活動を行っている。

研究として

- ・ IPE の評価研究、理論化、データ蓄積
- ・ IPW の理論化、実証研究、橋渡し研究
- ・ IPE (学部・大学院) 及び IPW プログラムの開発・普及
- ・ FD/SD プログラムの開発および効果検証

教育・実践として

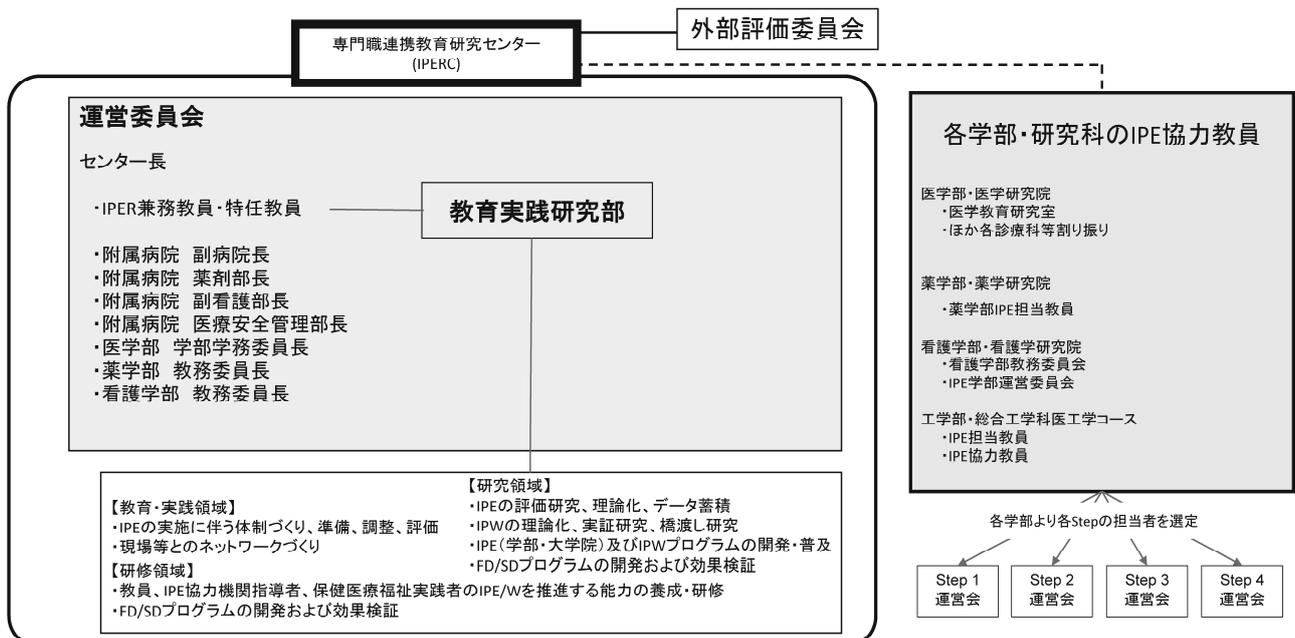
- ・ 3学部等のメンバーによる IPE の実施に伴う準備・調整・体制づくり・評価
- ・ 現場等とのネットワークづくり

研修として

- ・ 教員、IPE 協力機関指導者、保健医療福祉実践者の IPE/W を促進する能力の養成・研修
- ・ FD/SD プログラムの開発および効果検証

また、「教育実践研究部会」は、センター教員が部会員であり、3学部と連携し、IPE の科目運営を行っている。センターの運営については、センター長、センター教員の他、3学部の教務委員長および附属病院に委員を依頼し、定期開催している。また、「外部評価委員会」を設置し、センターの活動について評価、助言を得ている。センターの事務所管は、看護学部事務部センター事業支援係が担当することとなった。IPE は、看護学部の教務委員会、医学教育研究室、薬学部 IPE 担当教員と連携して行っている。

IPERCと亥鼻IPEの組織図



令和3年度（2021年度）センター職員名簿

センター長

- ・酒井 郁子（看護学研究院 教授）

特任教員

- ・臼井いづみ（看護学研究院 特任講師）
- ・孫 佳茹（看護学研究院 特任講師）
- ・馬場由美子（看護学研究院 特命助手）

兼務教員 50音順

- ・朝比奈真由美（医学部附属病院 特任教授）
- ・石川 雅之（薬学研究院 助教）
- ・井出 成美（看護学研究院 准教授）
- ・伊藤 彰一（医学研究院 教授）
- ・上原 知也（薬学研究院 教授）
- ・鈴木 紀行（薬学研究院 准教授）
- ・関根 祐子（薬学研究院 教授）
- ・中口 俊哉（フロンティア医工学センター 教授）
- ・眞嶋 朋子（看護学研究院 教授）

事務補佐員 50音順

- ・佐野 朋子
- ・富永 嘉子
- ・長谷川容佳

令和3年度センター運営委員名簿 50音順

- ・秋田 英万（薬学部 教務委員長）
- ・飯野 理恵（看護学部 副教務委員長）
- ・石井伊都子（医学部附属病院 薬剤部長）
- ・石橋みゆき（看護学部 教務委員長）
- ・伊藤 彰一（医学部 学部学務委員長） ※再掲
- ・大塚 将之（医学部附属病院 副病院長）
- ・菊田 直美（医学部附属病院 副看護部長）
- ・相馬 孝博（医学部附属病院 医療安全管理部長）
- ・上記 センター特任教員・兼務教員

令和3年度センター外部評価委員名簿 50音順

- ・新井 利民（立正大学 社会福祉部社会福祉学科 准教授）
- ・井手 正明（SP千葉） *SP：模擬患者
- ・川島 啓二（京都産業大学 共通教育推進機構 客員教授・初年次教育センター長）
- ・鈴木 麗子（千葉県 健康福祉部健康づくり支援課）
- ・渡邊 秀臣（高崎健康福祉大学 保健医療学部 学部長）

3. 専門職連携教育研究センター規程

千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター規程は、令和3年3月に看護学研究科教授会で決定した。

(趣旨)

第1条 この規程は、千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、社会のニーズに対応する体系的な専門職連携教育・連携実践を推進するためのプログラムを開発・普及するとともに、我が国及びアジア圏における専門職連携に関する教育、実践及び研究を発展・進化させることを目的とする。

(教育実践研究部)

第3条 センターに、教育実践研究部を置く。

(職員)

第4条 センターに、次の職員を置く。

- 一 センター長
- 二 センター兼務の教授，准教授，講師及び助教
- 三 その他の職員

(センター長)

第5条 センター長は、看護学研究院長の推薦により学長が選考する。

- 2 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、センター長が任期満了前に辞任し、又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 センター長は、センターの業務を総括する。

(センター運営委員会)

第6条 センターに、センターの円滑な運営を図るため、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第7条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 センターの運営に関する重要事項
- 二 その他運営委員会が必要と認めた事項

(組織)

第8条 運営委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 センター長
- 二 医学部，薬学部及び看護学部の教務担当委員長
- 三 その他センター長が必要と認めた者

(委員長)

第9条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。

(会議)

第10条 運営委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

- 2 運営委員会の議事は、出席委員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第11条 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者を運営委員会に出席させることができる。

(外部評価委員会)

第12条 センターに、外部評価を実施するため、外部評価委員会を置く。

2 外部評価委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第13条 センターの事務は、亥鼻地区事務部総務課において処理する。

(雑則)

第14条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規程は、令和3年4月1日から施行する。

2 千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター規程（平成27年4月1日制定）は、廃止する。

4. 令和3年度（2021年度）事業計画

●中長期5か年計画 令和2年—令和6年（2020—2024）

1) 教育

(1) 亥鼻 IPE の発展・進化

評価研究を通して、それぞれの Step を精査し必要なプログラムの開発を行う。それをもって効果的な「亥鼻 IPE」（Step1～Step5）の教育プログラムを確立する。また、適切に PDCA サイクルを運用し、教育プログラムを管理・運営・実施する。

(2) 新たな IPE プログラムの開発

グローバル IPE をプログラム化し、学生間の国際的・学際的相互学習の場を開発する。海外の多様な IPE プログラムの経験値を蓄積し、カリキュラムデザイン研究を発展させる。大学院での IPE プログラムを開発する。この中で災害時の専門職連携実践を進化させるための教育プログラムの開発・普及をする。

(3) FD の充実

FD のしくみを確立させ、亥鼻 IPE の人材バンクを組織化する。

(4) 受益者の参加による IPE の発展

患者・サービス利用者等、医療・保健・福祉・介護サービスの受益者が亥鼻 IPE に参加する仕組みを開発する。

2) 実践・社会貢献

(1) IPE 研究拠点からの発信

センターで開発した IPE プログラムや研修プログラムを書籍や教材といったプロダクトとして作成し、社会に発信する。またプログラム開発に使用した資料やデータベースの発信・共有をはかる。

(2) IPW の促進

専門職連携実践能力の向上を目指した IPW 研修の質を高め、継続して提供する。また、実践現場の課題に即した IPW コーディネーターの人材育成に関する研修プログラムを確立する。

(3) 政策提言

IPE/IPW の能力を有した人材が社会的に認知され、意欲的に活動するための認証制度について政策提言をする。また、医療系学士課程教育に対して、専門職・多職種連携教育関係科目の開設と制度化を促す活動を多面的に検討し、展開する。

3) 研究

(1) IPE 研究の進化

学生の IPE 体験を蓄積し、IPE の理論化・体系化に取り組み、専門職連携学の学術的枠組みを構築する。また、IPE の成果に関する国際比較研究に取り組む。その過程で IPE 研究者を育成する。

(2) IPW 研究の進化

様々な保健医療福祉介護機関における実践者の IPW 体験や、患者・サービス利用者の満足度や健康アウトカムへの影響を蓄積し、IPW のアウトカム研究に資する理論開発を行う。

4) 組織運営

(1) 予算と人材確保

新たな事業費や研究助成金の確保を迫及し、発展的な事業展開ができるようにする。人材確保に関してはクロスポイント制度の活用など、幅広く IPE・IPW に関わる研究や実務を担当できる人材の確保を図る。

(2) PDCA サイクルに基づく組織運営

IPERC の運営体制を、PDCA サイクルをもとに検証しながら運営を行う。

(3) IPERC の将来構想

ビジョンとして掲げている「専門職連携学」の構築を目指し、大学院における履修証明プログラムの導入、副専攻の設置などを検討する。

●令和3年度(2021年度) 事業計画

1) 教育

(1) 亥鼻 IPE の発展・進化

- ① 形成的評価を行い教育プログラムの課題の明確化と改善を行う。
- ② COVID-19 感染予防を念頭に置き、メディア授業における授業の工夫と改善を行う。
- ③ COVID-19 感染予防を念頭に置き、CIPE の試行を実施する。
- ④ CIPE の必修化の道筋を明確にする。(ワーキングチームを設け検討を行う。)

(2) 新たな IPE プログラムの開発

- ① オンラインプログラムを含めたグローバル IPE のプログラム化を行う。
 - ・ 英国レスター大学への学生短期留学
 - ・ カナダ、オーストラリアの IPE 実施大学との IPE 学生短期留学、交換留学
- ② 大学院における IPE プログラムの実施と評価

(3) FD の充実

- ① Step 1～4、および CIPE の FT 研修 (FD) を実施する。そのための教材開発を行う。
- ② 亥鼻 FD プロジェクトを継続して実施する。
- ③ 亥鼻 IPE の人材バンクの組織化を図る。

2) 実践・社会貢献

(1) IPE 研究拠点からの発信

- ① 国内外の大学や専門学校における IPE カリキュラムの開発と運営に関して、IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修や、コンサルテーション活動を通じ、IPERC が蓄積したカリキュラムマネジメントおよび FD の知見を広く周知する。
- ② IPE プログラムや研修プログラムについて書籍や教材、資料、データベースの発信に努める。

(2) IPW の促進

- ① IPW ベーシック研修、IPW マネジメント研修を実施する。
- ② 大学病院全職種新人研修を病院、医学部、薬学部と協働して実施する。
- ③ 大学病院の現任教育 IPE プログラム開発を大学病院と協働して実施する。
- ④ 千葉県からの委託事業として認知症専門職における多職種協働研修を実施する。
- ⑤ 保健医療福祉各種機関からの要請に応え、様々な現場での多職種協働実践能力向上のための研修に協力する。

(3) 政策提言

- ① 健康関連専門職の基礎教育課程における専門職連携教育に関わる科目の開設や制度化について、提言していく。

3) 研究

(1) IPE 研究の進化

- ① 医学部、看護学部、薬学部教員の IPE 研究のサポートを行う。
- ② IPE における学生の体験や現場の実践者の IPW 体験を蓄積し、IPW、IPE の理論化の理論化に取り組む。

③研究成果を発信する。

4) 組織運営

(1) 予算と人材確保

- ①研修事業による自己収入を図る。
- ②新たな事業費や研究助成金などの確保を図る。
- ③人材確保に関してはクロスアポイント制度の活用などの可能性を検討する。

(2) PDCA サイクルに基づく組織運営

- ①年間事業計画の策定と実施、評価を行う。
- ②外部評価委員会による評価を受け運営に反映させる。
- ③運営委員会を開催する。
- ④教育実践研究部会を開催する。

(3) IPERC 将来構想の具現化

- ①IPERC を含む総合教育棟の概算要求
- ②専門職連携学の構築を目指し、大学院における履修証明プログラムの導入や副専攻の設置などを検討する。

Ⅲ. センターの取り組みと成果

「1. 教育」「2. 実践」「3. 研究」「4. 運営」の4つの柱に沿って中長期目標を見出しとして、令和3年度(2021年度)の取り組みと成果を述べる。

1. 教育

1) 亥鼻 IPE の発展・進化

亥鼻 IPE の目的は、「患者・サービス利用者中心の医療」を担う「自律した医療組織人の育成」である。

亥鼻 IPE の学習到達目標は、以下の表のとおりである。貢献力・調整力に大別された専門職連携実践能力を段階的な学習プログラムの中で身につけることが目標となっている。

表 専門職連携実践能力と Step ごとの学習到達目標

	Step1	Step2	Step3	Step4
専門職連携実践能力	専門職としての態度の基礎を形成し、患者・サービス利用者および他学部の学生とコミュニケーションできる能力を身につける。Step1の終了時、学生は以下のことができる。	チームメンバーそれぞれの職種の役割・機能を把握し、効果的なチーム・ビルディングができる能力を身につける。Step2の終了時、学生は以下のことができる。	患者・サービス利用者、医療専門職間の対立を理解し、問題解決ができる能力を身につける。Step3の終了時、学生は以下のことができる。	患者・サービス利用者を全人的に評価し、患者・サービス利用者中心の専門職連携によって診療・ケア計画の立案ができる能力を身につける。Step4の終了時、学生は以下のことができる。
I. チームの目標達成のための行動	チームの取り組みと成果を説明できる	チームの目的達成に向け、自分の行動を調整できる	チームの目標達成のために、チーム内の対立を解決できる	チームの目標達成のために、チーム状況を評価し、自己の実践を決定できる
II. チーム運営のスキル	チームメンバーそれぞれの専門領域の役割機能を理解し尊重できる	チームづくりに必要な基礎知識とスキルを理解し、自分のチームに活用できる	対立及び対立の解決について説明でき、チームで生じている対立に気づくことができる	チームメンバーの専門性の特徴や限界に基づいてチームメンバーと協力できる
III. チームの凝集性を高める態度	チームメンバー、他の専門職及び教員と肯定的なコミュニケーションをとることができる	他の専門職や教員、チームメンバーと、チームの目標達成のために有効なコミュニケーションをとることができる	患者・サービス利用者の治療ケアのあり方について、チームメンバーと率直に話し合うことができる	チームメンバーおよびかかわる多様な専門職と、良好な人間関係のもと、話しやすい雰囲気を作ることができる
IV. 患者を尊重した治療・ケアの提供	患者・サービス利用者とのコミュニケーションから、患者・サービス利用者の体験と希望を理解できる	医療福祉サービスおよび行われているケアを患者・サービス利用者の自律および自立の観点から説明できる	複数の問題解決案の中から、患者・サービス利用者らの意思を尊重した最も良い方法を、チームとして選択できる	患者・サービス利用者への全人的評価に基づいた退院計画を、チームとして立案できる
V. プロフェッショナルとしての態度・信念	専門職として成長するために何が必要かを考えることができる	実際に行われているケアの根拠と理由を(説明を受けて)理解できる	学生の立場から専門職としてあるべき姿を考えることができる	専門職及び教員の支援を受けて、最新の専門知識を退院計画に反映できる
VI. 専門職としての役割遂行	チームの目標達成のために自己の責任を果たすことができる	医療、保健、福祉の場における各専門職の役割機能を説明できる	学生として現在保有している専門的知識と判断に基づいて、チームメンバーに意見を述べるができる	自職種の専門的知識や技術を用いてできることの範囲および課題を学生の立場から説明できる

以下、令和3年度(2021年度)の実績を述べる。令和3年度は、昨年度に引き続き COVID-19 の感染拡大防止のため、メディア授業での実施となった。Step1~4 までの参加学生数、協力教員数などのデータを(資料1)に示す。

(1) 形成的評価による教育プログラムの課題の明確化と改善

- ・大学からは、複数のツールを使うことは出来るだけ避けるようにという通達もあったが、受講人数が多いこと、外部からの協力者が参加することなどを考慮し、学生への講義には千葉大学 Moodle、オンライン会議システム Zoom、Google Workspace、統合メールシステムを使用し、教員間のミーティングには Microsoft Teams を用いた。
- ・講義は全て動画を千葉大学 Moodle 上に掲載してオンデマンド配信とした。
- ・各ステップの「学習の進め方」は紙媒体での配布をやめ、千葉大学 Moodle 上に時系列・課題内容毎にトピックを構築して、千葉大学 Moodle を見れば事前学習、個人課題、グループワークができるよう変更した。しかし、全体を見通すには分量が多く、また、プログラムの後半部分が多くスクロールしなければいけないなど、インターフェイス上の不自由さが明確になった。
- ・学生数が多いので、各ステップ2つの Zoom ライセンスを使用して運営した。

- Step1 では、「病院での患者インタビュー」を2施設で職員の協力のもと Zoom を使用して実施した。患者さんから学生たちへの期待やエールの言葉も聞かれ、PC のセッティング、患者の移動や操作に協力した看護師からは、「コロナ禍で家族との面会も十分ではない中、面会の可能性を考えるきっかけになった」「患者さんが学生さんの役に立っていると喜んでる姿を見られて嬉しかった」「耳が遠い患者さんがうまく学生の質問に答えられるか心配していたが、ヘッドホンをつけて良く聞こえたようで心配なかった」などの声が聞かれた。一部の学生は「在宅やグループホームで生活する保健医療サービス利用者・ご家族へのメールインタビュー」を行った。学習機会の平等性を考えると、全ての学生が Zoom での患者インタビューができるよう調整していく必要がある。
- Step2 では、「チームでの現場訪問」を「Zoom での専門職へのインタビュー」に変更した。学生からも、現場の協力者からも好評価であった。
- Step3 は昨年度に引き続き Zoom で実施した。授業評価でも高い満足度が得られた。
- Step4 は、昨年に引き続き、Zoom を使用して実施した。Zoom のブレイクアウト機能が向上し、学生が自分でブレイクアウトルームを移動できるようになったため、模擬患者面接、各専門職とのコンサルテーションに学生が遅れるトラブルは発生しなかった。開講時期が医学部の CBT が終わってからとなり、医学部生の不満が減少して、満足度が上がった。

(2) e-learning や反転授業の取り入れによる学生のアクティブな主体的学習の促進

- 講義は、すべて動画によるオンデマンド配信とした。また、できるだけ確認テストを実施して学習の定着を図る工夫をした。
- Zoom を用いてのプログラムであるので、各ステップで、事前に学生も含めた通信テストを複数回行い、円滑なプログラム運営に務めた。通信テストで、Google Workspace アカウントを用いた Zoom へのサインイン、Google Classroom への参加、ワークシートへの記入等を準備することで、学生も運営側もスムーズに運営することができた。
- Step1 では、「当事者体験の講演」は動画をオンデマンドで配信、Moodle のフォーラム機能で質問を受け付け、Zoom で講演者から回答をライブ配信した。
- 学生数が多いため、ライブ配信には Webinar を使用して実施した。
- 学習成果発表会を2つの Zoom ライセンスを使用して5会場で実施した。ポスターを Google スライド1枚に作成した。4学部の教員15名が各会場3名ずつに分かれ、ループリック評価表を用いて評価した。
- Step2 では、「フィードバックのロールプレイ」を Zoom のブレイクアウトルームを使って、学生が実施した。動画で教員のロールプレイを見たものと同じシナリオだったため、学生からは意味がないのではという指摘もあり、学生が実施するロールプレイシナリオを作成する必要がある。
- 「専門職へのインタビュー」は、Zoom を使用して実施し、大学附属病院、市中の病院、薬局、高齢者施設、訪問看護ステーション、診療所など計58部局・施設、84名の専門職の協力を得た。
- 本年度は Zoom を使って学習成果発表会を実施した。2つの Zoom ライセンスを使用し、4会場で実施した。3学部から計12名の教員が各会場3名ずつに分かれ、ループリック評価表を用いて評価した。28名のインタビュー協力者も発表会を聞くために参加した。
- Step3 では、2つの Zoom アカウントを使用して、グループワークと発表会を実施した。
- 個人ワークの成果を共有するためのプラットフォームとしてのワークシートを Google ドキュメントで準備した。
- Step4 では、附属病院の CCSC に運営本部を置き、20台のノート PC を持ち込んで Zoom での授業を運営した。
- 模擬患者さんを一人ずつ、CCSC の診察シミュレーション室に配置し、他の人の声が聞こえないようにした。
- 専門職とのコンサルテーションでは、学生が自分たちで時間管理をして、専門職が待つブレイクアウトルームに移動することにしたところ、開始が遅れるグループはなく、うまく運営できた。

(3) CIPE (クリニカル IPE) の試行および CIPE の必修化の道筋の明確化

- ・附属病院では、COVID-19 感染制御に関して学部ごとに異なる条件で実習を受け入れたことにより、3 学部の実習可能条件を満たす 6 診療科 6 病棟において、診療参加型 IPE (CIPE) を実施した。7 月の 6 グループに加え、看護学部の後期復学の学生の参加により 10 月に 1 グループ、合計 7 グループ 29 名 (医学部 5 年生 7 名、6 年生 1 名、看護学部 4 年生 12 名、薬学部 5 年生 9 名 (内 3 名は他大学) が参加した。6 診療科 6 病棟で、医師 9 名、看護師 13 名、薬剤師 10 名が指導に協力した。実習準備として、実習指導を担当する専門職 (医師、看護師、薬剤師) との打ち合わせを各診療科含め病棟ごとに行った。打合せには、COVID-19 感染対策から、Teams によるオンライン会議システムを用いた。学生のプログラム評価アンケート (回答率 84%) から、9 割以上が CIPE の学習効果があったと回答した一方で、学部の COVID-19 感染制御下での実習ガイドラインの違いにより CIPE チームメンバー間での制限が異なり時間を合わせるなどの困難が生じたとの回答があった。今後、話し合いによる実習ガイドラインの統一が必要である。来年度も、試行事業として実施する予定である。
- ・医学部と薬学部はすでに臨実習および実務実習の中で、CIPE を実施している。看護学部の新カリキュラム改定の科目編成の検討が始まっているので実現可能性を図っている段階である。

2) 新たな IPE プログラムの開発

(1) グローバル IPE のプログラム化

- ・オーストラリアのグリフィス大学、モナシュ大学の IPE 紹介動画を作成し、英国のレスター大学の IPE 動画と合わせて、オンデマンド学習コンテンツ化した。看護学部の科目「Global Health and Nursing II (GHN II)」のオンライン国際プログラムとして位置付けた。
- ・カナダのオタワ大学と、オンラインミーティングを持ち、GIPE を含め、大学間協定あるいは学部間協定を結ぶ方向で交換留学プログラムの開発に向け話し合いを持った。
- ・トライアルで始めたライブツィヒ大学助産課程の学生と看護学部生との交流を GHN II の条件を満たすよう準備した。5 名の看護学部生が受講し、1 名が単位を取得した。
- ・シンシナティ大学とグローバル IPE の COIL プログラムの開発構想を始める

(2) 大学院における IPE プログラムの開発

- ・看護学研究科の大学院科目に「専門職連携教育論」を新たに加えた。この科目は「専門職連携実践論」「災害時専門職連携演習」と共に千葉大学大学院共通科目として位置づけ、他の学府、研究院の院生にも開放し受講できるようになった。
- ・本年度は、看護学研究科、DNGL (災害看護学専攻)、コンソーシアム学生の受講があった。
- ・「専門職連携教育論」では、海外の IPE・IPC 関連の文献を読み、ディスカッションポイントをもって参加する討議形式の授業を持った。看護実践コース (医療現場で管理者として実務する学生) の学生の受講者が多く、実践上の具体的な連携課題を持って討議でき議論も活発であった。
- ・「専門職連携実践論」では、専門職連携の基礎的知識の教授と共に、IPC に活用できる連携スキルのオンライン演習を行った。災害時専門職連携演習のプレ学習となる内容も入れた。
- ・「災害時専門職連携演習」は、発災時の災害対策本部での意思決定、外部の支援要請、連絡調整について、オンラインでのシミュレーション演習にプログラム化し実施した。

3) FD の充実

(1) 亥鼻 IPE のファシリテーター研修の実施

- ・Step 1～4、および CIPE の FT 研修 (FD) を実施した。COVID-19 の影響持続により亥鼻 IPE プログラムは Step 1 と Step 2 を含め、全て同時双方向型オンライン授業にて実施した。これに伴

ってFD資料を改編した。Step1～2では、5月に2日間にわたりオンライン会議システム（Zoom）を用いてFDを開催した（詳細日程と参加人数は下記参照）。

【Step1】5月26日（水）17:30-18:30 <Zoom ミーティング>出席者は29名出席（内訳：医学部

5名、看護学部10名、薬学部3名、工学部7名、IPERC4名）であった。

【Step2】5月27日（木）18:00-19:00 <Zoom ミーティング>67名出席（医学部1名、看護学部

7名、薬学部3名、附属病院医師27名、外部実習期間実習担当者7名、IPERC4名）

【Step3～4】メールにて動画の視聴案内・資料の送付をし、適宜、担当教員の質疑に回答することでFDとした。

（2）亥鼻FDプロジェクトの継続実施

- ・「亥鼻IPEにおけるグループワークのファシリテーション」をテーマに、4月30日に実施した。

（3）亥鼻IPEの人材バンクの組織化

- ・IPERC主催のIPEカリキュラムマネジメント&授業開発研修やIPWベーシック研修・IPWマネジメント研修などを通じて、IPE・IPWに高い関心を持つ人材が集まってきつつある。看護学研究科の研究員になったり、亥鼻IPEの協力者となったり、各々の状況に合わせてIPERC事業に継続参加している。組織化までは至っていない。
- ・学内の教員の協力体制の組織化は、各学部でのルールに基づきシステム化されている。

2. 実践・社会貢献

1) IPE 研究拠点からの発信

IPE を推進してきた経験やそこから得られた知見を様々な形で発信し、日本のそして海外諸国の IPE の発展に寄与することを目的として、以下の事業に取り組んだ。

(1) IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修やコンサルテーション活動を通じた蓄積した知見の周知

- IPE カリキュラムマネジメント及び教育方法に関する研修会を実施した。
令和3年(2021年)8月22日(日)・11月23日(火)の2日間コースで、IPE カリキュラムマネジメント・授業開発研修を実施した。本研修は、医療保健福祉の専門職の養成に携わる教員が、専門職連携教育の実装に向けて必要なカリキュラムマネジメント能力および基礎的な授業開発を高めることを目的としている。(資料2)のとおり5名の受講があった。全員に修了証書を発行した。
- 静岡県看護協会からの依頼により、専任教員養成講習会にて、兼務教員の看護学研究院井出成美准教授が、専門職連携教育の概要について、講演・演習を行った。
- 亥鼻 IPE の実績、研修事業の実績、グローバル IPE に向けた動きなどをニュースレターにて発信した。

(2) IPE プログラムや研修プログラムについての書籍や教材の発信

(3) IPE プログラムや研修プログラムの開発に使用した資料やデータベースの発信

- 台北医科大学より講義動画依頼
2021年6月、台北医科大学より自校の看護学部の学生および教員向けに日本の看護教育を紹介する講義(動画)の依頼を受けた。講義の中で千葉大学看護学部の特徴ある教育として IPE プログラムについて発信しつつ、「日本の地域包括ケアシステム」(井出成美)、「日本及び千葉大学の看護教育」(酒井郁子)、「千葉大学看護学部のカリキュラムと実習」(臼井いづみ)という内容で日本の看護教育を紹介した。講演資料は英語で作成し、講演内容に中国語字幕付きの形で動画をまとめ先方に送付した。8月中旬に講義が台北医科大学で配信された。
- 群馬大学より IPE トレーニングコースの講義依頼
2021年8月23日から27日まで実施された群馬大学 IPE トレーニングコースの一環として、亥鼻 IPE プログラムを紹介した講義動画の依頼を受けた。講義は酒井郁子センター長と井出成美准教授が対応し、「Development, Operation, and Future Expectation of Inohana IPE」というタイトルで、亥鼻 IPE 全体の紹介および受講者のレポート分析という内容で行われた。8月25日(水)に講義動画が配信され、その後、ブルネイからの受講者で Dr. Sheba David, PhD より Step3 の学習内容について質問を頂き、IPERC より文章にて詳細に返答した。また、返答した内容が群馬大学より受講者全員まで共有が図られた。
- 各種出版社による特集企画
2022年11月刊行予定の書籍『専門職連携教育ガイド(仮)』および『専門職連携実践ガイド(仮)』との連動企画として、医学書出版社の南江堂が運営する NurSHARE (ナースシェア、看護教育のための情報サイト)にて IPE について発信した。これは南江堂が立ち上げた特集企画で、2022年3月より計5回にわたり、IPE の重要性を説くとともに、カリキュラム設計や授業デザイン、事例といった実際の計画・指導に役立てられる知識や情報を看護教員に向けて発信するものである。各回のテーマが「イントロダクション」「IPE で何を教えるのか—IPC を理解する」「IPE のカリキュラム設計」「IPE の授業デザイン」「IPE の実例報告」となっている。また、メディカ出版の看護教員向けの web 情報誌に、「専門職連携教育を発展させるためのポイント」と題して特別寄稿を掲載した(井出・酒井)。
- 「避難所 HUG」葛城地区バージョンの作成
葛城地区避難所運営委員会の委託を受け勉強会を実施するにあたり、静岡県「避難所 HUG」の葛城地区バージョンを作成し、静岡県より使用許諾番号 386 号を得た。

2) IPW の促進

(1) IPW ベーシック研修、IPW マネジメント研修の実施

- ・ **IPW ベーシック研修の目的**：医療・保健・福祉・介護の各種機関で働く専門職連携を推進するための課題を持った実践者が、専門職連携実践の推進に必要な基礎的能力を高めることを目的とする。
- ・ **IPW マネジメント研修の目的**：医療保健福祉の実践現場で専門職連携を推進するための課題を持った指導的立場・管理的立場の者が、専門職連携実践の推進に必要なマネジメント能力をたかめることを目的とする。本研修において、医療と介護の連携やチーム医療が求められている日本の現状を踏まえ、実践の現場での IPW 推進に向けた現任者研修計画案あるいはマネジメント計画案を立案・実践・評価する。
- ・ **【理論編】**と**【実践編】**に整理して実施した。**【理論編】**は、e-learning システムを構築し、「専門職連携の基礎的知識」「チームについて」「対立の解決のアプローチ」の3つの講義動画を作成し、受講者が自己学習できるように整備した。
- ・ **【実践編】**は、WHO の専門職連携実践能力の学習到達目標に沿って、下記5つのコースを設置し、プログラムを改善し、教材を整理した。
- ・ **【職種間の理解】**他職種間でお互いの専門性や職務を理解し、協働ワークを通じて連携実践能力を習得する。
- ・ **【チーム内の効果的なコミュニケーション】**自身のコミュニケーションの傾向と課題を知り、適切な意見伝達スキルを習得する。
- ・ **【チームワークの促進スキル】**チームメンバーのチームへの貢献やチームビルディング、リーダーシップフォロワーシップの能力を高める。
- ・ **【対立の解決】**専門職間や専門職と患者・利用者間で起こりうる対立の構造を理解し協調的な解決がはかれる解決の方法を学ぶ。
- ・ **【多職種カンファレンス】**多職種カンファレンスにおける基本動作を習得する。
- ・ 各研修の受講者は（資料2）のとおりである。本研修の受講者の学習ニーズをとらえるため、所属機関の種類・職種・所属先のある都道府県に分けて、受講者の状況を整理した。
- ・ IPW 実践編の実施直後のアンケートでは、とても満足 78.6%、満足 21.4%であった。

(2) 千葉大学医学部附属病院の新人研修や現任教育 IPE プログラムへの貢献

- ・ 本年度は COVID-19 の影響で中止となった。2022 年度の新人研修について、附属病院の総合医療教育研修センターおよび看護部と協働して計画している。

(3) 大学病院と協働しての現任教育 IPE プログラムの開発

- ・ 総合医療教育研修センターの特定行為研修におけるチーム医療演習に協力し、情報伝達スキル、カンファレンスの基本動作、対立の解決のストラテジーについてオンラインでの演習を実施した。
- ・ また医師と看護師合同の採血演習を行った。

(4) 千葉県からの委託事業として認知症専門職における多職種協働研修を実施

- ・ 本研修の目的は、認知症の人と家族の支援に携わる医療・介護・福祉等の専門職同士が、認知症に関わる現状や知識・情報を共有するとともに、お互いの役割や活動内容等を理解し、連携をとり協働しやすい関係を作ることである。
- ・ 研修は令和3年12月19日(日)と令和4年1月29日(土)の2回実施し、114名が参加した。

・プログラムは、以下のとおりである。

1. オリエンテーション
2. 講義「専門職連携の基礎知識」
3. ワークショップ「アイスブレイク私の仕事紹介」
4. ワークショップ「効果的な情報伝達スキル」
5. ワークショップ「多職種カンファレンス」

事前学習 講義「認知症の人の理解とケア」

講師：酒井郁子センター長

諏訪さゆり 看護学研究院長 教授

井出 成美 看護学研究院 准教授

臼井いづみ IPERC 特任講師

孫 佳茹 IPERC 特任講師

馬場由美子 IPERC 特命助手

- ・ COVID-19 感染拡大防止のため、講義、ワークショップ共にオンラインで実施した。
- ・ 事前学習として「認知症の人の理解とケア」の講義動画を視聴してもらった。
- ・ 資料配布には Google ドライブのリンク先を知らせる方法を取った。
- ・ 受講者にアンケートを実施し、満足度と意見を尋ねた。オンラインでのミーティングに不慣れな場面もあったが多くの反響があった。全体を通しての研修の評価では、「あまり満足ではない」と「不満足」の評価は無く、高い満足度が得られた。

(5) 保健医療福祉各種機関での多職種協働実践能力向上のための研修への協力

- ・ IPERC 教員が実施した社会貢献活動を資料3に示す。
- ・ 文部科学省「就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業」の一環として実施された「地域密着 介護・医療 DX 人材育成プログラム」に講義を提供した。主催側となる千葉大学医学部付属病院患者支援部からの協力要請に応じ、2021年12月25日(土)に「IPE(地域医療・介護支える多職種を繋ぐ)研修」と題した同時双方向型オンライン研修講義を行った。受講者は24名で、年齢幅が19歳から80歳までとばらつきがあり、また職業背景がさまざまであるという特徴を考慮し、オンライン研修の最初にICTスキルについて丁寧に案内するよう心掛けた。
- ・ 葛城地区避難所運営委員会より事業委託を受け、「葛城地区避難所運営委員会 HUG 勉強会」を2022年2月17日(木)15:30~17:30という日程で開催した。開催目的が高齢者や障害者など、災害時の避難行動要支援者の避難について、地域の防災・高齢・障害に関わる組織のメンバーと一緒に勉強会を行うことで、地域の防災力向上を図るというこの勉強会では、避難所運営ゲームHUGを体験して頂いた。葛城地区避難所運営委員・あんしんケアセンター千葉寺職員・中央区障害者基幹相談支援センター職員・中央区地域振興課職員・葛城公民館職員・葛城中学校教頭が参加した。避難所の関係者が実際の避難を想定して前向きに話し合うきっかけ作りとなった。

3) 政策提言

(1) 健康関連専門職の基礎教育課程における専門職連携教育に関わる科目の開設や制度化への提言

- ・ 酒井センター長が、厚生労働省看護基礎教育検討会に委員として加わり行った提言が実を結び、2022年から保健師助産師看護師学校養成所指定規則が改正され「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン」のなかで、チーム医療および多職種との協働能力の育成が位置付けられた。
- ・ 厚生労働行政推進調査事業による「看護師等学校養成所における専門職連携教育の推進方策に関する研究」(研究代表者：酒井郁子)で実施した調査結果を論文として公表した。

3. 研究

1) IPE 研究の進化

(1) 医学部、看護学部、薬学部教員の IPE 研究のサポート

- ・酒井センター長が定期的あるいは不定期に、各学部の教員の IPE 研究の助言指導を行い、論文公表への支援を行った。
- ・他大学の教員も参画し、IPE 研究、IPW 研究に関するスタディミーティングを月 2 回のペースで実施した。
- ・IPERC 運営教員および IPERC 特任教員の科学研究費補助金獲得は、合計 7 件である。一覧を（資料 4）に示した。

(2) 学生の IPE 体験や実践者の IPW 体験の蓄積と IPW, IPE の理論化

- ・上記（1）のスタディミーティングの中で IPE や IPW の理論・実践・評価について学習する機会を持った。
- ・COVID-19 による IPE への影響について海外の動向を探った他、第 14 回日本保健医療福祉連携学会において、コロナ禍におけるオンライン同時双方向型で行われた IPE プログラムの学習効果や臨床 IPE の課題について計 4 本の研究発表を行なった。
- ・IPERC が主導する「IPE プログラムの教育評価に関する研究」の一環として、2021 年度の Step1～Step4、そして臨床 IPE の受講生を対象とした研究データを収集した。亥鼻 IPE の教育プログラムの教育評価を行い、IPE プログラムの学習効果と教育方法の改善点を明確にするための取り組みをさらに進めた。

(3) 研究成果の発信

- ・〔原著および査読つき論文〕 3 本、〔査読なし論文〕 12 本、〔学会発表〕 10 本、〔シンポジウム招聘〕 9 回 詳細は（資料 6）に示した。

4. 組織運営

1) 予算と人材の確保

(1) 研修事業による自己収入の獲得

- ・本年度は、研修事業の受講料にて 101 万円の自己収入を得た。

(2) 新たな事業費や研究助成金の確保

- ・IPERC 特任教員・兼務教員が IPE/IPW や専門職教育に関わる研究費として獲得し継続中の研究助成金を（資料 4）に示した。
- ・法人からの寄付金、事業委託費を（資料 5）に示す。

(3) クロスアポイントメント制度の活用などの検討

- ・制度の活用には至っていないが引き続き可能性を検討する。
- ・亥鼻高機能化構想の基金により特任講師 2 名の人件費を得られた。

2) PDCA サイクル (plan-do-check-act cycle) に基づく組織運営

(1) 年間事業計画の策定と実施、評価

- ・第 2 期五か年計画（令和 2-6 年）の 2 年度目として、令和 3 年度事業計画を立て、事業運営を行っ

た。実績をまとめ運営委員会に報告した。

(2) 外部評価委員会による評価と運営への反映

- ・第2期五か年計画（令和2-6年）の2年度目として、令和3年度事業計画を立て、事業運営を行った。実績をまとめ外部評価委員会に報告し評価を得た。（IV.外部評価委員会開催と外部評価委員による講評を参照）

(3) 運営委員会の開催

- ・COVID-19感染防止のため、オンラインによる会議を3回実施した。
 - 第1回令和3年5月11日（Zoomによるオンライン会議）
 - 第2回令和3年10月5日（Zoomによるオンライン会議）
 - 第3回令和4年2月15日（Zoomによるオンライン会議）

(4) 教育実践研究部会の開催

- ・亥鼻 IPE の評価とコンテンツ検討会議を開催した。令和4年2月7日実施。

3) IPERC の将来構想

(1) IPERC を含む総合教育棟の概算要求

- ・千葉大学のマスタープランのヒアリングに酒井センター長および井出准教授が出席し、IPERC の将来構想について提示した。

(2) 専門職連携学の構築を目指した大学院における履修証明プログラムの導入や副専攻の設置などの検討

- ・看護学研究院の大学院科目に「専門職連携教育論」「専門職連携実践論」「災害時専門職連携演習」における教育プログラムの実施評価を蓄積し、履修証明プログラム構築のための基礎資料を作成した。

IV. 外部評価委員会開催と外部評価委員による講評

1. 令和3年度（2021年度）外部評価委員会の開催

千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター外部評価委員会に関する内規に基づき、令和3年度外部評価委員会を計画した。COVID-19 拡大防止対策のため、Zoom によるオンライン会議として開催した。

日時：令和4（2022）年3月14日（月）15:00～16:30

会議出席者（五十音順）

外部評価委員5名 新井委員、井手委員、川島委員、鈴木委員、渡邊委員：（p6 参照）

千葉大学関係者15名

諏訪研究院長、酒井センター長

（以下運営委員）朝比奈特任教授、飯野講師、井出准教授、石川助教、石橋准教授、伊藤教授、上原教授、菊田副看護部長、鈴木准教授、孫特任講師、中口准教授、馬場特命助手、眞嶋教授

2. 外部評価委員による講評

外部評価委員には、令和3年度の事業実績について、「A：計画より進捗している、B：計画通り進捗している、C：計画よりやや遅れがある、D：計画よりかなり遅れがある」の評価基準での評価と総合評価コメントをいただいた。外部評価委員からの評価コメント（原文のまま）を掲載する。

	IPERC 自己評価	外部評価委員評価			
		A 評価	B 評価	C 評価	D 評価
1. 教育	B	2名	3名		
2. 実践・社会貢献	A	5名			
3. 研究	B	1名	4名		
4. 組織運営	B	3名	2名		

【総合評価コメント】

A 委員	<p>教育、実践・社会貢献、研究、組織運営のいずれの面においても、コロナ禍の中での尽力・工夫が随所にみられ、また、自己評価の視点も適切であると判断する。プログラムのプロダクトを評価すると同時に学生同士のフィードバックを重視しているとのことだが、形成的評価における重要な視点なので今後も留意してほしい。CICS29 は、汎用性のある取り組みであり、高く評価されよう。もっと重点的にアピールされてよい。ただ、研究利用と一口に言っても様々なアプローチがあると思われるので、そのあたりの知見も整理されるとより有意義な展開が期待できると思われる。IPE の千葉大学全体の中での位置づけも、それなりに模索されているようで、大いに期待したい。医療系にとどまらず全学に波及すれば、大学教育の新しいイノベーションの一つになりうるであろう。IPE の大学院での制度的枠組みの今後と合わせて注目したいところである。</p>
B 委員	<p>昨年度、今年度と新型コロナの影響を受け、従来とは違ったオンラインによる講義やグループワークをせざるを得ない状況となったが、こうした取り組みが逆に功を奏し、先進的な取り組みとなっているのではないかと思います。</p> <p>このことは、IPE プログラムを看護学研究科の大学院科目にも「専門職連携教育論」として加えたことからとも言えると思います。</p> <p>地域で公衆衛生看護をしている立場として、大学教育から他職種と連携の意義を学んだ学生が現場に出てきてくれることは大変頼もしく思います。</p> <p>また、千葉大学内にとどまらず、他大学や国内外に拡げていく取り組みにも大変評価に値するものと思いました。</p>

C 委員	<p>コロナ禍における様々な制約の中、特に ICT を使用した IPE が発展していることは非常に評価できる。これは、国内の専門職連携教育のみならず、高等教育における領域を超えたグループ学習・グローバル教育や、実践における部門・領域を超えたコミュニケーション・システムのイノベーションをもたらすと考えられる。すでに実践・社会貢献の分野、IPERC の将来構想においてもその応用が途についていることが伺え、今後の更なる発展を期待したい。</p> <p>今回示されたデータや評価の議論の中で、学生グループ間や学部間での学習満足度のばらつきに対するフォローアップの必要性が示唆された。学部教育の段階では、いわゆる「パフォーマンスの高いチーム活動」からの学びだけではなく、なかなか活動がうまく進まない「停滞したチーム活動」から学ぶことも重要であると考えられる。困難なチーム状況からいかに学びを引き出すかについて、さらに研究が重ねられ、効果的なファシリテーションやプログラムの展開方法について、議論が発展することを期待したい。</p>
D 委員	<p>教育では、昨年来のコロナ感染拡大の下で e-learning や ZOOM のブレイクアウトルーム等の活用／運営を進化させた授業で学習効果を上げている点が評価できます。Step1～4 の満足度推移は昨年からの改善は見られているもののバラツキが残っている事やオンラインでのチームビルディング等に改善の余地があると思われ B 評価が妥当と判断します。</p> <p>実践・社会貢献では、IPE カリキュラム&授業開発研修、IPW ベーシック研修／マネジメント研修、多職種協働実践能力向上のための研修などを多様な組織や団体に提供し高い評価を得ています。また、CICS29 が多くの大学や保健医療福祉機関から使用許諾を求められる等計画以上の進捗がみられていることを踏まえ A 評価とします。</p> <p>研究では、医学部、看護学部、薬学部教員の IPE 研究サポートや IPW、IPE の理論化への取り組みを通じての科学研究費補助金獲得や研究成果の発信にも成果を計画通り上げることができており B 評価とします。</p> <p>組織運営では、酒井センター長の「毎年新しい事にチャレンジする」リーダーシップの下で着実に PDCA サイクルを回されており A 評価とします。</p> <p>なお、研究業績(資料 2-6)、IPERC への寄付金および事業委託費(資料 2-7)の集計については、他大学あるいは平均的な指標との差異、過去 2-3 年の推移等を加味する等で、より価値が判断しやすいまとめ方を工夫されるよう望みます。</p>
E 委員	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育：ICT を利用したオンライン授業が十分構築されている。特に附属病院でのクリニカル IPE が新型コロナウイルス感染症の蔓延する中でも実施されていることは、附属病院の深い理解と大きな支援があり、学部を超えて大学全体での支援体制があると評価される。コロナ感染症沈静後の IPE における ICT の活用にも具動的なビジョンを持っている。工学部一年生の満足度が比較的低い、高い期待を持った新入生が期待通りでないとは評価することは世界共通であり、欠点ではない。むしろ、工学部の取組となるが、全カリキュラムにおける包括的な教育プログラム内での実施等でより高い IPW の大切さの理解が期待できる。 2. 実践・社会貢献：IPE 教育の普及に寄与する研修会が着実に実施されており、全国的に周知が進んでおり、本センターの貢献が着実に実施されていると評価される。 3. 研究：科学研究費の獲得、論文の発表等、研究成果は計画通りに進捗している。 4. 組織運営：社会貢献で実施する研修会、また複数の行政から理解・期待により経済的基盤が整えられてきた。全学的な視点から本センターの将来構想に対する活動が実施されている。また附属病院での多職種連携文化による卒後 IPE の充実に大きな期待がもてる。このことは具体的なエビデンスはないが、本センターの行う IPE 教育のインパクトを感じた。

3. 外部評価委員の講評のまとめ

PDCA サイクルによるセンター運営を行う上で重要な外部評価を受けた。5 名の外部評価委員は、高等教育の専門家、IPE に精通している他大学の教員（異領域から 2 名）、県内地方自治体の保健福祉分野の行政職、玄鼻 IPE の協力者という多方面からご参集いただいた。以下、委員の評価・コメントを踏まえて今後の課題を記載した。

1) 教育について

COVID-19対策によるメディア授業への転換が軌道に乗った本年度であった。ICTを活用した授業の工夫が、単なる応急措置ではなく、コミュニケーション・システムのイノベーションをもたらし、先進的な取り組みになりうる点をご指摘いただいた。今後も学生からの反応、教員からの反応、学習成果物の質等を分析しながら形成的評価を行い、最善の方法を探りながら実施していきたい。各学部間の学習到達度や満足度の差を減らしていくことが課題である。

大学院におけるIPEプログラムの発展については、看護学研究科の再編に絡めて3科目を設置し、大学院共通科目とした。これにより、センターのビジョンである専門職連携学の構築に向けて、一歩前進した。受講状況や教育評価を行いさらに発展に向けて課題を明確にし、取り組んでいきたい。

2) 実践・社会貢献について

IPEカリキュラムマネジメント&授業開発研修、IPWマネジメント研修、IPWベーシック研修をはじめとして、大学病院での現任者へのIPEプログラムの模索についても評価していただいた。CICS29の使用への需要が多数あることについて、計画以上の進捗と評価を頂いた。これらの社会貢献活動についても、効果評価やプロセス評価を行い、PDCAサイクルによりさらに改善・充実をはかりたい。

3) 研究について

研究費の獲得や研究実績の蓄積について、一定の評価をいただいた。今後も、リサーチミーティングの開催による研究推進や国内外の学会等での発信、論文化について一層努力していきたい。

4) 組織運営について

研究に関する外部資金、企業からの寄付や研修事業による収益を得て運営の安定化を図ったことや、PDCAを回し改善を図っている努力について評価いただいた。また全学的視点からのセンターの将来構想や、常に新しいことへのチャレンジをするという姿勢について評価を頂いた。

今後もIPERCのビジョンの達成に向けて少しでも歩みを進めていきたい。

VI. 資料

(資料1) 亥鼻 IPE 数値実績

年次	Step1					Step2			Step3					Step4				クリニカル IPE				合計	
	医学部	看護学部	薬学部	工学部	計	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	計		
2007	97	86	85	-	268	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	268	
2008	100	81	83	-	264	97	83	83	263	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	527	
2009	109	84	80	-	273	97	83	83	263	97	85	43	225	-	-	-	-	-	-	-	-	761	
2010	109	84	80	-	273	108	83	77	268	102	78	50	230	95	89	41	225	-	-	-	-	996	
2011	113	84	86	-	283	119	86	84	289	103	84	39	226	102	76	43	221	-	-	-	-	1019	
2012	117	85	88	-	290	115	80	87	282	119	83	37	239	101	85	38	224	-	-	-	-	1035	
2013	118	84	88	-	290	116	86	89	291	123	83	44	250	123	85	35	243	-	-	-	-	1074	
2014	119	84	83	-	286	117	83	87	287	120	81	50	251	124	81	49	254	-	-	-	-	1078	
2015	121	83	87	-	291	116	85	83	284	130	83	46	275	113	83	42	238	4	4	3	11	1099	
2016	119	80	84	-	283	119	84	87	290	123	85	45	258	131	83	40	254	15	13	13	41	1126	
2017	118	84	86	54	342	117	80	84	281	125	80	45	255	124	84	40	248	17	17	16	50	1176	
2018	117	84	85	44	330	114	80	84	278	117	158	42	321	132	79	45	256	11	17	10	38	1223	
2019	123	82	89	46	340	116	81	85	282	122	81	55	261	118	160	51	329	14	14	17	45	1257	
2020	117	80	93	41	331	124	84	88	296	110	84	43	237	118	80	44	242	-	-	-	-	1106	
2021	116	82	95	50	343	113	77	93	283	129	77	57	263	109	81	41	231	8	12	9	29	1149	
					4487				3937				3291				2965					214	14894

教員及び外部機関専門職 (総計 1561 名)

*医学部は附属病院医師含む。

**附属病院は医師以外

年次	Step1 (教員、外部機関専門職)					Step2 (教員、外部機関専門職)					Step3 (教員、外部機関専門職)							
	*医学部	看護学部	薬学部	工学部	その他	計	*医学部	看護学部	薬学部	*附属病院	外部機関	計	*医学部	看護学部	薬学部	*附属病院	外部機関	計
2007~2010	31	44	37	-		112	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	0
2011	8	10	10	-		28	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	0
2012	8	11	9	-		28	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	0
2013	13	14	13	-		40	4	6	5	0	15	4	6	5	0	-	-	15
2014	12	15	15	-		42	5	5	7	0	17	4	10	6	3	40	63	
2015	17	12	6	-		35	7	7	6	22	42	15	8	5	3	24	55	
2016	16	10	7			33	6	6	7	2	22	7	13	6	3	1	30	
2017	14	11	7	10		42	6	6	6	2	21	8	10	6	-	-	24	
2018	12	9	6	12		39	7	5	5	1	18	9	9	6	-	-	24	
2019	18	9	7	13		47	12	6	5	1	24	12	11	7	-	-	30	
2020	5	16	7	3		31	4	16	5	0	25	11	15	8	-	-	34	
2021	11	13	7	12	4	43	11	9	4	1	25	10	9	8	-	-	27	

協力 TA [大学院生] (総計 236 名)

年次	Step1				Step2				Step3				Step4				合計	
	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	計		その他
2007~2010	18	37	34	89	1	5	0	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	95
2011	1	17	2	20	2	7	0	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29
2012	0	9	0	9	4	2	0	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
2013	4	4	3	11	6	3	0	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
2014	0	5	2	7	0	3	2	5	0	2	0	1	3	1	2	1	4	19
2015	1	4	0	5	2	2	0	4	2	1	0	1	4	2	3	1	6	19
2016	1	3	0	4	0	1	1	2	1	0	0	0	1	3	0	1	5	12
2017	1	2	4	7	1	0	5	6	1	2	2	0	5	4	1	4	9	27
2018	0	2	4	6	2	0	4	6	0	1	2	0	3	0	6	0	8	23
2019	3	7	2	12	3	6	3	12	0	3	2	0	5	3	0	2	1	35
2020	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
2021	0	3	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5

300

実習協力施設（総計 691 施設）

年次	Step1		Step2							クリニック IPE		合計
	病院	福祉施設	病院	診療所	薬局	訪問看護 ステーション	回復期リハビリ テーション病棟	介護福祉施設 ・ 保健機関	計	診療科	附属病院	
2007~2010	24	0	15	32	52	25	-	21	145	-	-	169
2011	6	0	5	11	15	11	-	8	50	-	-	56
2012	6	0	5	9	22	9	-	4	49	-	-	55
2013	6	0	6	12	21	6	-	3	48	-	-	54
2014	7	0	6	11	17	6	3	2	45	-	-	52
2015	6	0	6	11	15	5	4	3	44	2	2	52
2016	6	0	7	11	15	5	6	3	47	10	10	63
2017	7	0	11	10	15	5	3	5	49	12	12	68
2018	7	0	7	11	13	5	3	3	42	9	9	58
2019	8	0	5	14	17	5	3	2	46	10	10	64
2020	0	1	1	5	5	1	0	1	13	-	-	13
2021	2	1	5	6	11	4	2	2	33	6	6	42

746

FD/SD の参加者数 (総計 1456 名) *2016～亥鼻 FD プロジェクト開始

年次	Step1	Step2		Step3	Step4	*その他	合計
		実習施設 担当者	フ ァ シ リ テ ィ タ ー				
2007～2010	88	44	-	-	28	105	265
2011	17	33	-	-	23	-	73
2012	17	31	-	-	17	-	65
2013	20	17	-	-	25	-	62
2014	31	15	-	61	25	-	132
2015	10	28	43	52	24	22	179
2016	21	42	-	29	35	54	181
2017	23	21	-	21	29	134	228
2018	22	36	-	16	25	43	142
2019	17	28	-	22	26	36	129
2020					29	35	64
2021	29	49	-			21	99

1619

授業に協力いた
だいた患者団体
(総計 81 団体)

2007～2010	48
2011	17
2012	2
2013	2
2014	2
2015	2
2016	2
2017	2
2018	2
2019	2
2020	3
2021	2

86

(資料2) IPERC 主催研修受講者

IPW カリキュラムマネジメント&授業開発研修の参加者

所属	領域	都道府県	人数
大学	看護	埼玉県	1
		愛知県	2
		兵庫県	1
専門学校	看護	大阪府	1

IPW ベーシック研修、IPW マネジメント研修の参加者

【理論編】 23名

所属	職種	都道府県	人数
医療機関	看護職	千葉県	2
		神奈川県	1
		秋田県	1
		京都府	1
		愛媛県	1
		大分県	1
	薬剤師	茨城県	1
		神奈川県	1
		理学療法士	千葉県
研究員・心理士	埼玉県	1	
管理栄養士	千葉県	1	
大学・短期大学・専門学校	看護学	広島県	1
		青森県	1
		大阪府	1
		東京都	1
		岐阜県	1
		佐賀県	1
介護老人保健施設	看護職	神奈川県	1
その他	看護職	京都府	1
	スクールソーシャルワーカー	香川県	1
	事務職	東京都	1

【IPW ベーシック研修 実践編】 36名

職種間の理解 7名

所属	職種	都道府県	人数	計
医療機関	薬剤師	神奈川県	1	5
	看護師	神奈川県	1	
		千葉県	1	
		大分県	1	
	理学療法士	千葉県	1	
大学・専門学校	看護師・保健師	岐阜県	1	2
	看護学	佐賀県	1	

対立の解決 7名

所属	職種	都道府県	人数	計
医療機関	看護師	神奈川県	1	4
	看護師	千葉県	1	
	診療看護師	大分県	1	
	理学療法士	千葉県	1	
大学・専門学校	看護学	佐賀県	1	1
その他	看護師	京都府	1	2
	事務職	東京都	1	

チーム内の効果的なコミュニケーション 6名

所属	職種	都道府県	人数	計
医療機関	薬剤師	神奈川県	1	4
	看護師	大分県	1	
	理学療法士	千葉県	2	
大学・専門学校	看護学	佐賀県	1	1
その他	事務職	東京都	1	1

多職種カンファレンス 8名

所属	職種	都道府県	人数	計
医療機関	看護師	神奈川県	1	6
		千葉県	2	
		大分県	1	
	理学療法士	千葉県	1	
	管理栄養士	千葉県	1	
専門学校	看護学	佐賀県	1	1
その他	看護師	京都府	1	1

チームワークの促進スキル 8名

所属	職種	都道府県	人数	計
医療機関	薬剤師	茨城県	1	5
	看護師	神奈川県	1	
		千葉県	1	
		大分県	1	
理学療法士	千葉県	1		
大学・専門学校	保健師	東京都	1	2
	看護学	佐賀県	1	
その他	看護師	京都府	1	1

【IPW マネジメント研修 実践編】 2名

所属	職種	都道府県	人数	計
医療機関	薬剤師	茨城県	1	2
短期大学・専門学校	看護学	愛知県	1	

(資料3) 地域貢献事業実績
【国内】

依頼内容の種類	依頼主種別	依頼主	案件	内容	日	時間帯	場所	対応者
1 事業委託	行政機関	千葉県高齢者福祉課	委託事業	認知症にかかわる専門職の多職種協働研修	2021.12.19 2022.1.29	9:30- 16:00	オンライン	酒井郁子センター長 諏訪さゆり教授 井出成美准教授 臼井いづみ特任講師 孫佳茹特任講師 馬場由美子特命助手
2 主催事業		IPERC	主催事業	IPERC カリキュラムマネジメント&授業開発研修	2021.8.22 2021.11.23	9:30- 16:00	オンライン	酒井郁子センター長 井出成美准教授 臼井いづみ特任講師 孫佳茹特任講師 馬場由美子特命助手
3 主催事業		IPERC	主催事業	IPW ベーシック研修・マネジメント研修【理論編】	2021.4.1~ 1.31		オンライン(オンデマンド)	酒井郁子センター長 井出成美准教授
4 主催事業		IPERC	主催事業	IPW ベーシック研修実践編	2021.10.12 2021.10.26 2021.11.16 2021.11.30 2021.12.14	16:00- 19:00	オンライン	酒井郁子センター長 井出成美准教授 臼井いづみ特任講師 孫佳茹特任講師 馬場由美子特命助手
5 主催事業		IPERC	主催事業	IPW マネジメント研修実践編	2022.1.22	10:00- 16:00	オンライン	酒井郁子センター長 井出成美准教授 臼井いづみ特任講師 孫佳茹特任講師 馬場由美子特命助手
6 講師派遣	その他	(株)医学書院看護出版部	「カリキュラム編成準備セミナー-2021」講師	「専門職連携教育の理解と導入」の振り返りとご質問から：専門職連携教育(IPE)の実践千葉大学亥鼻 IPE での内容を中心に①亥鼻 IPE の学習目標と学習内容および評価②亥鼻 IPE の実施体制③学生の声・反応、協力施設との連携方法④IPE のマネジメント⑤コスト面の工夫について解説	2021.5.17		(株)医学書院	酒井郁子センター長

依頼内容の種類	依頼主種別	依頼主	案件	内容	日	時間帯	場所	対応者
7	職能団体	東京都看護協会	看護師職能委員会Ⅱ企画研修	看護管理者のサービスの質管理	2021.5.21	9:30-16:30	東京都看護協会	酒井郁子センター長
8	他大学	淑徳大学 こども教育学科	講演	中国の教育	2021.6.25	14:30-16:00	ハイブリッド (Zoom&淑徳大学)	特任 孫佳茹
9	他大学	東京慈恵会医科大学	FD・SD 研修会	回復期リハビリテーション病棟におけるEBP実装研究の実践	2021.7.24	13:00-16:00	オンライン	酒井郁子センター長
10	学内	千葉大学医学部 附属病院	特定行為研修	チーム医療研修	2021.7.30	13:00-17:00	オンライン	酒井郁子センター長 井出成美准教授 臼井いづみ特任講師 孫佳茹特任講師 馬場由美子特命助手
11	他大学	群馬大学多職種連携教育研修センター	The 8th Gunma University IPE Training Course	Development, Operation, and Future Expectation of Inohana IPE.	2021.8.25	15:00-15:50	オンライン	酒井郁子センター長 井出成美准教授 臼井いづみ特任講師 孫佳茹特任講師 馬場由美子特命助手 David Casenove 講師
12	職能団体	千葉県看護協会	第20回認定看護管理者教育課程セカンドレベル	総合演習Ⅱ	2021.9.13	9:30-12:30	千葉県看護協会館	酒井郁子センター長
13	職能団体	静岡県看護協会	教員講習会	専門職連携教育とは	2021.9.27	9:30-16:30	オンライン	井出成美准教授
14	保健医療福祉機関	千葉中央メディカルセンター	第14回M&M.	せんもうケアチームの先進的知識	2021.10.14	17:30-19:00	千葉中央メディカルセンター	酒井郁子センター長

	依頼内容の種類	依頼主種別	依頼主	案件	内容	日	時間帯	場所	対応者
15	講師派遣	大学以外の教育機関	青森県八戸北高等学校	大学の先生による出張講義	専門分野に関する模擬講義	2021.10.19	13:05-15:50	オンライン	酒井郁子センター長
16	講師派遣	職能団体	東京都看護協会	認定看護管理者教育課程ファーストレベル第1回、第2回	質管理 I	2021.11.15	9:30-16:30	オンライン	酒井郁子センター長
17	講師派遣	職能団体	神奈川県看護協会	令和3年度介護保険施設等看護研修Ⅱ	介護保険施設の看護管理者の役割と責務	2021.12.2	9:30-12:30	オンライン	酒井郁子センター長
18	講師派遣	職能団体	東京都看護協会	認定看護管理者教育課程ファーストレベル第3回	質管理 I	2021.12.20	9:30-16:30	オンライン	酒井郁子センター長
19	講師派遣	学内	千葉大学医学部附属病院	地域密着介護・医療DX人材育成プログラム	IPCP のスキル	2021.12.25	9:00-16:00	オンライン	酒井郁子センター長 井出成美准教授 臼井いづみ特任講師 孫佳茹特任講師 馬場由美子特命助手
20	講師派遣	その他	全国助産師教育協議会 将来構想委員会	講演	助産師教育協議会会員に対するシミュレーション教育の基礎について「シミュレーション教育とは、その工夫と留意点」というタイトルで講演	2022.1.30	10:00-11:10	オンライン	特任 臼井いづみ
21	講師派遣	その他	千葉市中央区葛城地区避難所運営委員会	委託事業	避難所運営ゲーム HUG の実際	2022.2.17	15:30-17:30	葛城公民館	酒井郁子センター長 井出成美准教授 臼井いづみ特任講師 馬場由美子特命助手
22	講師派遣	学会	日本保健医療福祉連携教育学会	第2回多職種教育勉強会	玄鼻 IPE におけるカリキュラムおよび授業デザインの再設計	2022.3.25	16:00-17:40	オンライン	酒井郁子センター長

依頼内容の種類	依頼主種別	依頼主	案件	内容	日	時間帯	場所	対応者
23	CICS29 他大学	佐賀大学 先進健康科学研究科 修士課程 総合看護科学コース	CICS29 を使用したい	調査研究に CICS29 を使用する ことへの許諾ねがい	2021.4.4			酒井郁子センター長
24	CICS29 他大学	旭川医科大学大学院医学研究科 修士課程	CICS29 を使用したい	調査研究に CICS29 を使用する ことへの許諾ねがい	2021.4.20			酒井郁子センター長
25	CICS29 保健医療福祉 機関	東京北医療センター 総合診療科 専攻医 東京都台東区立台東病院 総合診療科 専攻医	CICS29 を使用したい	調査研究に CICS29 を使用する ことへの許諾ねがい	2021.5.6			酒井郁子センター長
26	CICS29 他大学	福岡県立大学大学院看護学研究科 研究コース 臨床看護学領域 成人看護学	CICS29 を使用したい	調査研究に CICS29 を使用する ことへの許諾ねがい	2021.5.30			酒井郁子センター長
27	CICS29 他大学	北海道医療大学 全学教育推進センター(併任:心理科学部)	CICS29 を使用したい	調査研究に CICS29 を使用する ことへの許諾ねがい	2021.6.8			酒井郁子センター長
28	CICS29 保健医療福祉 機関	独立行政国立病院機構東埼玉病院 看護師	CICS29 を使用したい	調査研究に CICS29 を使用する ことへの許諾ねがい	2021.6.10			酒井郁子センター長
29	CICS29 保健医療福祉 機関	高知県立幡多けんみん病院 看護師	CICS29 を使用したい	調査研究に CICS29 を使用する ことへの許諾ねがい	2021.8.20			酒井郁子センター長
30	CICS29 他大学	名古屋大学大学院医学系研究科 医療行政学	CICS29 を使用したい	調査研究に CICS29 を使用する ことへの許諾ねがい	2021.09.09			酒井郁子センター長
31	CICS29 保健医療福祉 機関	独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜中央病院	CICS29 を使用したい	調査研究に CICS29 を使用する ことへの許諾ねがい	2021.09.09			酒井郁子センター長

依頼内容の種類	依頼主種別	依頼主	案件	内容	日にち	時間帯	場所	対応者
32	保健医療福祉機関	医療法人 横浜博萌会 西横浜国際総合病院 回復期リハビリテーション病棟	CICS29 を使用したい	調査研究に CICS29 を使用することへの許諾ねがい	2021.12.21			酒井郁子センター長
33	他大学	ルーテル学院大学 総合人間学部 人間福祉心理学科	CICS29 を使用したい	調査研究に CICS29 を使用することへの許諾ねがい	2022.01.20			酒井郁子センター長
34	保健医療福祉機関	藤田医科大学 七栗記念病院	CICS29 を使用したい	調査研究に CICS29 を使用することへの許諾ねがい	2022.2.9			酒井郁子センター長
35	他大学	旭川医科大学 大学院医学研究科 修士課程健康教育開発学領域	CICS29 を使用したい	調査研究に CICS29 を使用することへの許諾ねがい	2022.3.13			酒井郁子センター長
36	保健医療福祉機関	医療法人社団 城東桐和会 東京さくら病院 重度認知症デイケア	CICS29 を使用したい	調査研究に CICS29 を使用することへの許諾ねがい	2022.3.25			酒井郁子センター長

【海外】

依頼内容の種類	依頼主種別	依頼主	案件	内容	日にち	時間帯	場所	対応者
1	他大学	TMUN 台湾医科大学	TMUN Online Exchange Program	Chiba University School of Nursing Curriculum and Clinical Practicum.	2021/7/26		オンライン	臼井いづみ 特任講師
2	他大学	TMUN 台湾医科大学	TMUN Online Exchange Program	The Community-based Integrated Care Systems for the older person in Japan. The Education System of the Nursing Profession in Japan and an introduction of the Chiba University School of Nursing and Graduate School of Nursing.	2021/7/26		オンライン	井出成美 准教授
3	他大学	TMUN 台湾医科大学	TMUN Online Exchange Program		2021/7/26		オンライン	酒井郁子センター長
4	他大学	アントワープ大学 医学部・健康科学部	ハンナ・ポエレンス	CICS29 を使いたい	2022/1/18			酒井郁子センター長
5	他大学	ニューキャッスル大学 公衆衛生医学専攻	リー・レスブリッジ	CICS29 を使いたい	2022/2/7			酒井郁子センター長

(資料4) IPERC 特任教員・兼務教員の獲得している研究助成金 (いずれも継続)

No	研究代表者	研究課題	助成金の種類
1	朝比奈真由美	英国大学と協働で開発するグローバル・地域包括ケア IPE プログラムの構築	科研基盤研究 C
2	石橋みゆき	Transitional ケアコンピテンシーを基盤とした地域連携教育プログラム開発	科研基盤研究 B
3	井出 成美	学生の専門職間連携能力の発展を促進する IPE プログラムの実装に有用な学習理論開発	科研基盤研究 C
4	伊藤 彰一	専門職連携のための専門職連携による FD 実践のための基盤研究とプログラム開発	科研基盤研究 C
5	白井いづみ	災害対策本部で必要なリーダーシップを育成するシミュレーション教育プログラムの開発	科研基盤研究 C
6	酒井 郁子	回復期リハビリテーション病棟における EBP 実装プログラムへの検証	科研基盤研究 B
7	関根 祐子	舌圧値を活用した口腔機能評価に基づく薬剤師による口腔教育・服薬支援システムの構築	科研基盤研究 C

(資料5) IPERC 外部からの寄付金及び委託費

寄付金

項目	交付額	備考
ユニコ (2018 年度)	1,500,000	来年度繰越可能
社会医療法人 関愛会 (2019 年度)	200,000	来年度繰越可能
社会医療法人 関愛会 (2020 年度)	100,000	来年度繰越可能
社会福祉法人りべるたす (2020 年度)	300,000	来年度繰越可能
	2,100,000	

委託費

項目	交付額	備考
千葉県 (認知症にかかわる専門職の多職種協働研修)	816,000	今年度使い切り
千葉市中央区葛城地区避難所運営委員会(HUG 勉強会)	60,000	今年度使い切り
	876,000	

(資料6) 研究業績

特任教員および兼務教員の研究業績（下線は兼務教員、二重下線は特任教員）を以下に示す。

[原著]

1. Yamamoto, T., Yamamoto, M., Abe, H., & Sakai, I.: Exploring barriers and benefits of implementing interprofessional education at higher education institutions in Japan. *Journal of Allied Health*, 50(2), 97-103, 2021.

[論文等 (査読あり)]

2. Hasegawa, T., Seo, T., Kubota, Y., Sudo, T., Yokota, K., Miyazaki, N., Muranaka, A., Hirano, S., Yamauchi, A., Nagashima, K., Iyo, M., & Sakai, I. (2022). Reliability and validity of the Japanese version of the 4A's Test for delirium screening in the elderly patient. *Asian J Psychiatr*, 67. <https://doi.org/10.1016/j.ajp.2021.102918>
3. 伊藤裕佳, 山本武志, 井出成美, 酒井郁子 (2022). 看護師等学校養成所における専門職連携教育の実装状況と課題, *保健医療福祉連携*, 15(1), 2-10, 2022.

[論文等 (査読なし)]

4. 酒井郁子 (2021). 長期ケア施設の看護管理入門(第6回)(最終回) 長期ケア施設における危機管理, *臨床老年看護*, 日総研出版, 28(3), 96-102.
5. 酒井郁子 (2021). 特集 リハビリテーション医療における新人教育 新人教育・研修の実際—看護職員. *総合リハビリテーション*, 医学書院, 49(6), 555-562.
6. 石丸美奈, 増島麻里子, 辻村真由子, 岩田裕子, 田代理沙, 森恵美, 宮崎美砂子, 酒井郁子 (2021). 【エビデンスを臨床実践に活かす挑戦-JBIを契機とする臨床実践と研究者の協働】EBPに向けたシステムティックレビューの重要性 3 大学の取り組みから考える 千葉大学の取り組み. *看護研究*, 54(3), 207-212.
7. 酒井郁子 (2021). 看護師のギモンに答える!エビデンスの使い方・広め方 第4回慣習を見直しEBPにつなげるリーダーシップ. *週刊医学界新聞*, 3430, 5.2021.
8. 酒井郁子 (2021). 看護師のギモンに答える!エビデンスの使い方・広め方 第5回コロナ禍のICUで実践する多職種とのEBP. *週刊医学界新聞*, 3434, 5.
9. 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹, 馬場由美子, 飯野理恵, 朝比奈真由美, 関根祐子, 中口俊哉, 酒井郁子 (2021). COVID-19 感染拡大下の大規模オンライン IPE の実際. *保健医療福祉*, 14(2), 126-132.
10. 井出成美, 酒井郁子(2022). 「専門職連携教育」を発展させるためのポイント. *看護教育に携わるみなさまへの情報誌 ラポール*, No.10. 2022.1.28, <https://ml.medica.co.jp/rapport/>
11. 酒井郁子 (2022). IPEをはじめましょう、そして続けましょう 第1回「イントロダクション」. *看護教育のための情報サイト『NurSHARE』特集*, 南江堂, <https://www.nurshare.jp/article/detail/10154>
12. 孫佳茹 (2022). IPEをはじめましょう、そして続けましょう 第2回「IPEで何を教えるのか(IPEを理解する)」. *看護教育のための情報サイト『NurSHARE』特集*, 南江堂, <https://www.nurshare.jp/article/detail/10167>
13. 井出成美 (2022). IPEをはじめましょう、そして続けましょう 第3回「IPEのカリキュラム設計」. *看護教育のための情報サイト『NurSHARE』特集*, 南江堂, <https://www.nurshare.jp/article/detail/10172>
14. 井出成美, 臼井いづみ (2022). IPEをはじめましょう、そして続けましょう 第4回「IPEの授業デザイン」. *看護教育のための情報サイト『NurSHARE』特集*, 南江堂, <https://www.nurshare.jp/article/detail/10173>
15. 馬場由美子, 酒井郁子 (2022). IPEをはじめましょう、そして続けましょう 第5回「IPEの実例報告」. *看護教育のための情報サイト『NurSHARE』特集*, in press, 南江堂, <https://www.nurshare.jp/article/detail/10175>

〔報告書〕

16. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫 佳茹, 馬場由美子, 富永嘉子, 長谷川容佳, 佐野朋子: 千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター令和3年度事業報告書, 2022.

〔単行書〕

17. 酒井郁子: 特集 リハビリテーション医療における新人教育 4. 新人教育・研修の実際—看護職員. 総合リハビリテーション, 49(6), 医学書院, 555-562, 2021.
18. 井出成美: 地域住民の相互の助け合い強化によるまちづくり. 宮崎美砂子, 北山三津子, 春山早苗, 田村須賀子 (編), 最新公衆衛生看護学, 第3版 2022年版, 日本看護協会出版会, 305-309, 2022.
19. 井出成美: 第Ⅲ章成人期にある人の健康 4 保健・医療・福祉政策と今日の健康課題 B 地域包括ケア. 林直子, 鈴木久美, 酒井郁子, 梅田恵 (編), 成人看護学概論 社会に生き世代をつなぐ成人の健康を考える. 改訂第4版, 南江堂, 103-105, 2022.
20. 井出成美: 第Ⅲ章成人期にある人の健康 4 保健・医療・福祉政策と今日の健康課題 D 認知症対策. 林直子, 鈴木久美, 酒井郁子, 梅田恵 (編), 成人看護学概論 社会に生き世代をつなぐ成人の健康を考える. 改訂第4版, 南江堂, 109-112, 2022.

〔学会発表抄録〕

21. 酒井郁子 (2021) : ウィズ・アフターコロナ時代の高齢社会の展望 with/after コロナ社会の高齢者施設での新たなケア提供と協働. 日本老年医学会雑誌, 58(Supple), (一社)日本老年医学会, 31.
22. 酒井郁子, 深堀浩樹, 山川みやえ, 金盛琢也, 正木治恵, 塩田美佐代, 大野直子, 呑香美佳子, 滝口美重, 石川容子, 森山祐美 (2021) . 急性期病院における認知症ケア加算によるケア改善プロセスの検討. 日本老年看護学会第26回学術集会抄録集, 98. (オンライン)
23. 金盛琢也, 山川みやえ, 深堀浩樹, 石川容子, 森山祐美, 正木治恵, 平尾美佳, 酒井郁子 (2021) : 認知症疾患医療センターにおける地域包括ケア推進に向けた支援の実施状況. 日本老年看護学会第26回学術集会抄録集, 106. (オンライン)
24. 檜木野桃子, 酒井郁子 (2021) : 高齢者専門病院における根拠に基づいたケア改善システムの構築. 日本老年看護学会第26回学術集会抄録集, 150. (オンライン)
25. 岩本由美子, 酒井郁子 (2021) : 有床診療所における療養支援のためのシステム構築. 日本老年看護学会第26回学術集会抄録集, 151.
26. Uehara, T., Sakai, I., Usui, I., Ishii, I., Asahina, M. (2021) : 臨床的 IPE は卒業時における医学生 IP 能力の自己評価を向上させるのか (Does the clinical IPE enhance students' self-assessment of their IP competency at graduation?). 医学教育, 52 (Supple), 86. (オンライン)
27. 馬場由美子, 臼井いづみ, 井出成美, 孫 佳茹, 朝比奈真由美, 石川雅之, 酒井郁子 (2021) : 大学病院における臨床参加型 IPE に対する学生評価から得られた課題. 第14回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム・抄録集, 31. (オンライン)
28. 臼井いづみ, 井出成美, 馬場由美子, 孫 佳茹, 近藤昭彦, 岩崎寛, 濱侃, 酒井郁子 (2021) : オンライン同時双方向で実施した災害時専門職連携シミュレーション教育の実際と課題. 第14回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム・抄録集, 32. (オンライン)
29. 井出成美, 臼井いづみ, 馬場由美子, 孫 佳茹, 飯野理恵, 関根祐子, 中口俊哉, 朝比奈真由美, 酒井郁子 (2021) : 同時双方向メディアツールによる協働学習の学習成果の対面授業との比較. 第14回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム・抄録集, 33. (オンライン)
30. 孫 佳茹, 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 馬場由美子, 飯野理恵, 朝比奈真由美, 関根祐子, 中口俊哉 (2021) : 同時双方向型授業でのグループワークにおけるオンライン上のコミュニケーションの課題. 第14回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム・抄録集, 38. (オンライン)

[シンポジウム・招聘講演]

31. 日本老年看護学会第 26 回学術集会 合同シンポジウム 13
飯島勝矢, 澤岡詩野, 錦見昭彦, 戸原玄, 相田里香, 酒井郁子, 橋本衛: ウィズ・アフターコロナ時代の高齢社会の展望. 日本老年看護学会, 東京, 2021. (オンライン)
32. 第 5 回中国看護品質会議 基調講演セッション
酒井郁子: 高齢者医療の品質管理のための指標に基づくモニタリング, The 5th China Nursing Quality Conference, 中国 (山東省青島), 2021. (オンライン)
33. 第 25 回日本看護管理学会学術集会 インフォメーション・エクステンジ 24
酒井郁子, 山本武志, 山本則子, 北川裕利, 中井智子, 山下祐貴, 鈴木靖子, 西宮岳, 小松亮, 習田由美子: 特定行為研修修了者を組織的に導入し、効果的な診療・ケアを可能にするためのビジョンの創造と看護官理実践の共有. 第 25 回日本看護管理学会学術集会抄録集, 194, 2021. (オンライン)
34. 第 25 回日本看護管理学会学術集会 インフォメーション・エクステンジ 4
小野田舞, 山田雅子, 宇都宮明美, 餘目千史, 酒井郁子, 田母神裕美, 長江弘子, 吉川久美子, 渡邊千登世: 簡保連における令和 4 年度診療報酬改定に向けた取り組みの報告と令和 6 年度改定に向けた検討. 第 25 回日本看護管理学会学術集会抄録集, 184, 2021.
35. 酒井郁子: 講演 千葉県回復期リハビリテーション連携の会 第 10 回全県大会看護師部会. 2021. (オンデマンド)
36. 日本ルーラルナーシング学会第 16 回学術集会 交流集会 1
酒井郁子, 山本武志, 山本則子, 北川裕利, 中井智子, 山下祐貴, 藤谷茂樹, 鈴木靖子, 習田由美子, 佐伯昌俊, 西宮岳, 小松亮, 本田和也: 地域医療における特定行為研修修了者の活用を考える. 日本ルーラルナーシング学会第 16 回学術集会抄録集, 24, 2021. (オンライン)
37. 第 41 回日本看護科学学会学術集会 交流集会 K21
西宮岳, 山本則子, 山本武志, 北川裕利, 鈴木靖子, 中井智子, 酒井郁子, 山下祐貴, 佐伯昌俊, 小松亮: 組織的に特定行為研修修了者の活躍を支える多延の活用モデルと指針. 第 41 回日本看護科学学会学術集会抄録集, 50, 2021. (オンライン)
38. 第 41 回日本看護科学学会学術集会 交流集会 K25
深堀浩樹, 五十嵐歩, 大江真琴, 大久保暢子, 小池智子, 酒井郁子, 新福洋子, 武村雪絵, 廣岡佳代, 福井小紀子: 若手研究者を巻き込んだ大型研究費の獲得を目指して 研究・学術推進委員会の活動報告と今後の課題. 第 41 回日本看護科学学会学術集会抄録集, 51, 2021. (オンライン)
37. 臼井いづみ: シミュレーション教育とは その工夫と留意点. 全国助産師教育協議会研修会, 2022.1.30 (オンライン)



IPERC ロゴマークの由来

IPERC のロゴマークは、看護学部、医学部、薬学部の3つの学部からはじまった亥鼻 IPE のうねりが、新しい風を取り込んで大きくなっていく風のイメージで作成されました。

千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター
令和3年度 事業報告書

発行者：千葉大学大学院看護学研究院専門職連携教育研究センター

編集者：酒井郁子、井出成美、臼井いづみ、孫佳茹、馬場由美子、富永嘉子、長谷川容佳、佐野朋子

発行日：令和4年（2022）年3月

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻 1-8-1

千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター

E-mail : inohana-ipe@office.chiba-u.jp

※本報告書の一部あるいは全部を無断で複写複製（コピー）することを禁止いたします。
活用に際しては、あらかじめ発行者に承諾を求めさせていただきますよう、お願いいたします。